

特集 1

5年間のヒストリー

特集 2

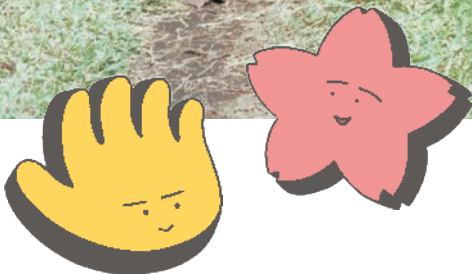
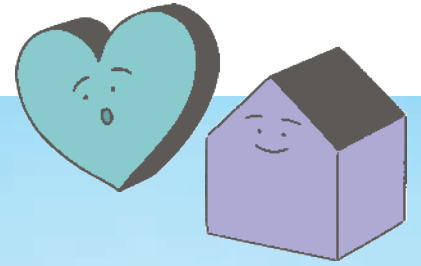
【助成事業】

子どもの学び支援団体を支援！
ベネッセこども基金の助成事業に期待すること

特集 3

【自主事業】

財団の原点事業
子どもの安心・安全を守る活動



未来ある子どもたちが 安心して自らの可能性を広げられる 社会を目指して

ベネッセこども基金は、「未来ある子どもたちが安心して自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、2014年設立し、2015年に公益財団法人に移行しました。

子どもが安心して学べる環境づくり、経済的困難や病気・障がいなど、学びに課題を抱える子どもたちの支援に取り組みながら、よりよい社会づくりを担う子どもたちを育む学び支援にもトライしています。

2019年、ベネッセこども基金は設立5周年の年でした。5年間の積み重ねから検討し、改訂した助成のプランの実施や新しいテーマでの自主事業の展開、また、これまでの活動を多くの方々に認知していただくことに注力いたしました。

2020年度はこの先の5年を見据え、子どもを取り巻く社会課題の解決・支援に向けて活動を深めてまいります。

ベネッセこども基金は、自らが企画・実施する「自主事業」と、地域でテーマに沿った子ども支援に取り組む団体への「助成事業」を通じて、子どもたちを支援しています。


自主



子どもの
安心・安全を
守る活動


自主 助成

経済的困難を
抱える子どもの
学び支援



自主 助成

病気・障が
抱える子ども
学び支援



理事長ごあいさつ

当財団は、2019年10月に財団設立5周年を迎えました。「未来ある子どもたちが安心して自らの可能性を広げられる社会」の実現を目指し、子どもをとりまく社会環境の改善や、困難を抱える子どもの学び支援を、自主事業と助成事業を組み合わせながら取り組み、活動実績を積み重ねてまいりました。財団の立ち上げから今日まで、ご支援、ご助力いただきました皆様へ深く感謝申し上げます。

助成事業においては、環境の変化や現場での実感からよりよい助成の在り方を模索し続けてきました。なかでも「経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成」については、より中長期的な課題解決の支援が行えるよう改訂した最大3年間の助成活動がスタートしました。また、近年頻発する自然災害による子どもの支援においても、緊急支援の枠組みや運用を工夫し、より迅速に支援・助成を必要とされる方のもとに届けられる仕組みを整え、2019年度の台風19号による災害の際には想定以上のはやさで遂行することができました。

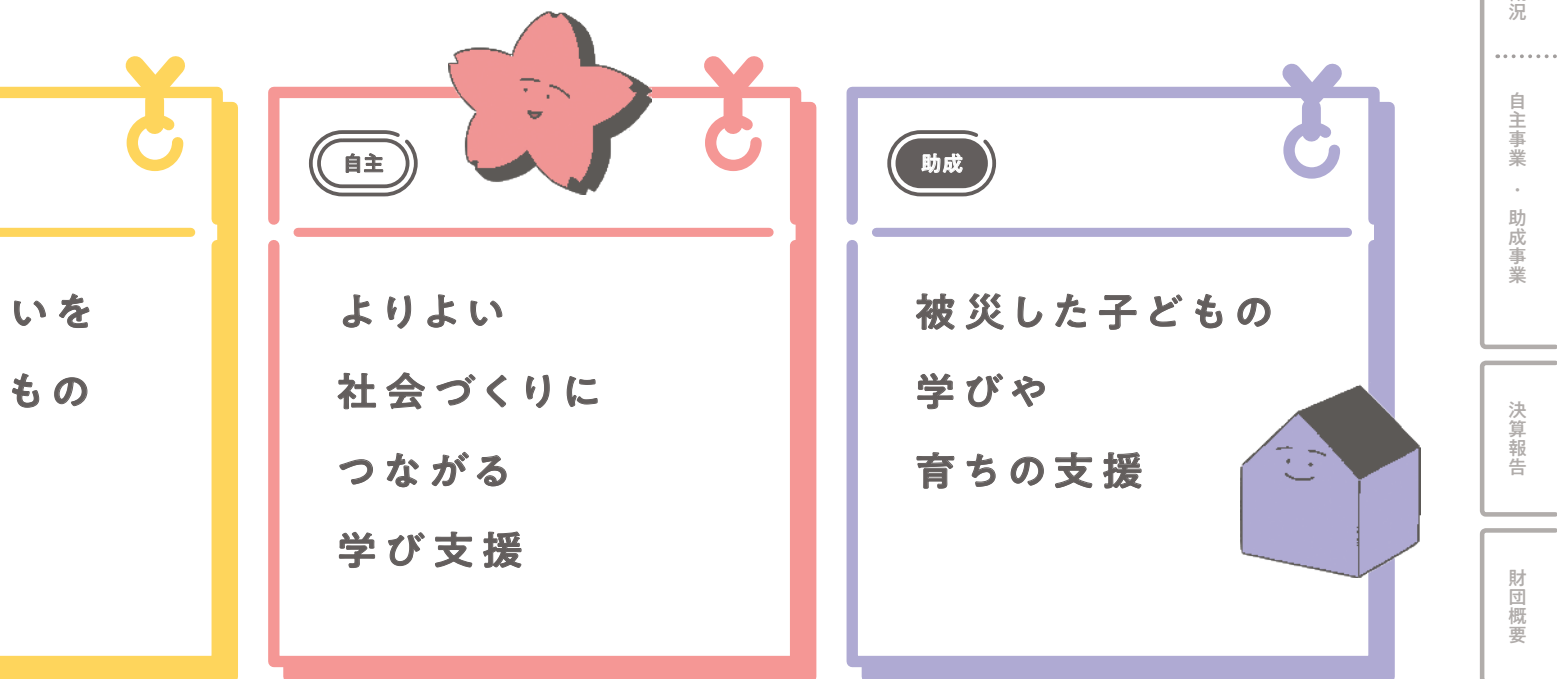
また、助成団体とのつながりや活動を通して見えた課題を知見のある団体と共に解決する、学びのプログラムやコンテンツの企画開発など、当財団独自の取り組みも積みあがってきたと感じております。

これまでの成果を大切にしながら、次の5年を見据え、新しく再スタートさせる気持ちをもって活動してまいります。今後とも皆様からのご支援・ご指導をどうぞよろしくお願い申し上げます。

公益財団法人 ベネッセ子ども基金 理事長 五十嵐 隆



国立成育医療研究センター理事長
東京大学医学部医学科卒業。
同小児科、東京大学大学院医学系研究科小児医学講座小児科教授などを経て現職。
日本子ども環境学会会長、ドナルド・マクドナルド・ハウス財団理事長、中山人間科学振興財団理事、日本保育協会理事、日本小児医学研究振興財団理事など。



History

ベネッセ子ども基金5年間のヒストリー

2014

2015

2016

一般財団法人として設立

公益財団法人に移行

子どもの安心・安全を守る活動

防犯冊子配布開始

防災教育紙芝居配布開始

「子どもの安全サポーターひろば」サイトリリース

経済的困難を抱える

子どもの学び支援

助成

経済的困難を抱える子どもの学び支援助成：単年度助成 **募集** 開始

募集

助成団体 **交流会** 開始

自主



病気・障がいを抱える

子どもの学び支援

助成

重い病気を抱える子どもの学び支援助成 **募集** 開始

自主

院内学級支援プロジェクト開始

発達障害支援サイト「エール&リンク」リリース



よりよい社会づくりにつながる学び支援

ちびっこおえかきコンテスト共催開始

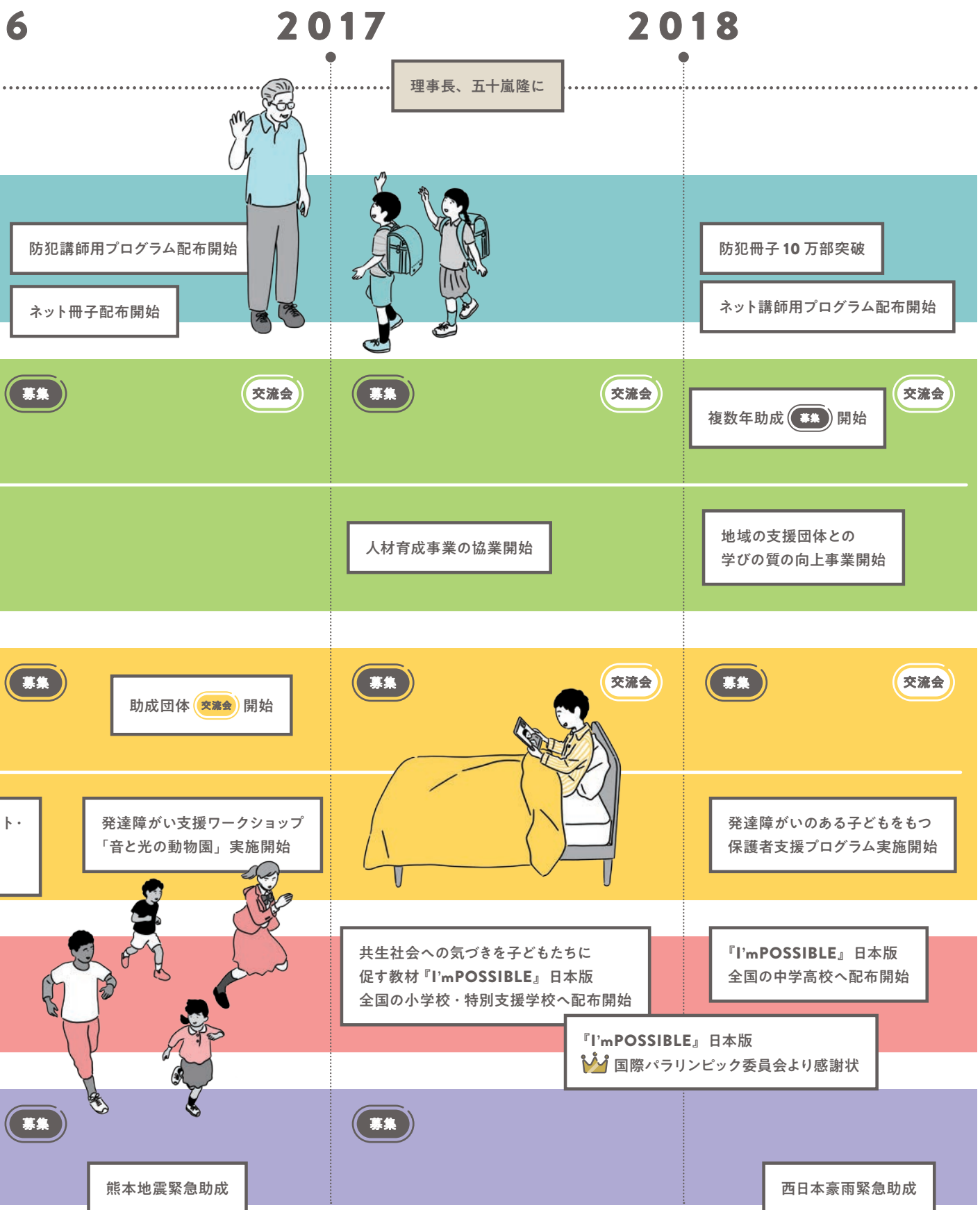
高校生英語ディベート大会共催開始

被災した子どもの学びや育ちの支援

災害地の学びや育ち支援助成 **募集** 開始



「未来ある子どもたちが安心して自らの可能性を広げられる社会」
 の実現を目指して設立されたベネッセこども基金は2019年10月に
 財団設立5周年を迎えました。



理事長ごあいさつ

特集1 5年間のヒストリー

特集2 「助成事業」

特集3 「自主事業」

活動概況

自主事業
・
助成事業

決算報告

財団概要

2019 Highlights

ベネッセこども基金2019年のハイライト



4月

7月

子どもの安心・安全を守る活動

※詳細は11ページ

👑 ネット冊子が
消費者教育教材資料表彰2019
優秀賞を受賞

防犯冊子・防災紙芝居広報強化

経済的困難を抱える

子どもの学び支援

助成

助成団体交流会
※詳細は17ページ

自主

子ども支援団体現状調査実施

病気・障がいを抱える

子どもの学び支援

助成

助成団体交流会
※詳細は17ページ

助成団体募集

自主

発達障がい支援ワークショップ
「音と光の動物園」開催地の地域を拡大
👑 This is MECENAT 認定

「発達障がいのある子どもをもつ保護者支援プログラム」
仙台で実施

院内学級支援プロジェクト拡大

よりよい社会づくりにつながる学び支援

👑 ちびっこおえかき
This is MECENAT 認定

『I'mPOSSIBLE』日本版
全国の小中高・特別支援校へ配布

👑 ちびっこおえかきコンテストキッズデザイン賞

被災した子どもの学びや育ちの支援

緊急助成の通年募集開始



10月

1月

10月31日
5周年を迎える

基金発足5周年
記念講演会実施

財団サイト
リニューアル



ネット冊子改訂・配布

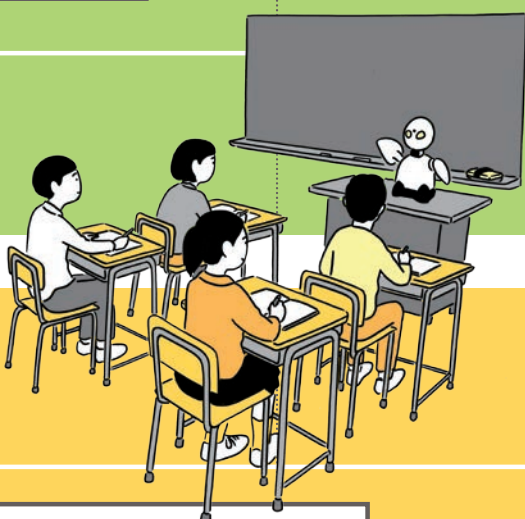
防犯冊子・
ネット冊子
各20万配布突破

ネット「講師用プログラム」
リニューアル

複数年助成第2期助成団体募集

助成先決定
※詳細は19ページ

調査報告
(FRJ)



助成先決定
※詳細は18ページ

「音と光の動物園」
横浜で実施

発達障がいのある子どもをもつ
保護者支援プログラム横浜で実施



第7回ちびっこおえかきコンテスト実施

第7回ちびっこおえかきコンテスト審査

を受賞

台風19号緊急助成団体募集

一次審査

二次審査

三次審査

四次審査
助成先決定
※詳細は20ページ

子どもの学び支援団体を支援！

ベネッセこども基金の

助成事業に期待すること



設立後すぐスタートした助成事業について、立ち上げ時からご指導いただいていたお二人と、助成先の団体の代表の方にお話をうかがいまし

た。5年間の活動が可視化でき、各団体の成果共有の仕方など早期に改善できる点と、今後挑戦すべき課題を確認する機会となりました。

写真提供 a：岡山子育て応援団バビママ b：c：(公社) こどものホスピスプロジェクト



オンライン対談

Online Conversation

理事長(あいさつ)

特集1 5年間のヒストリー

特集2 「助成事業」

特集3 「自主事業」

活動概況

自主事業・助成事業

決算報告

財団概要

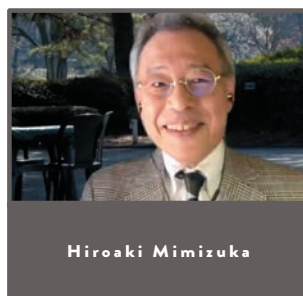
JCNE 業務執行理事

山田泰久氏

一般財団法人非営利組織評価センター 業務執行理事
日本財団で長らく福祉領域の業務に携わる。元NPO法人CANPANセンター代表理事を経て現職。



Yasuhisa Yamada



Hiroaki Mimizuka

理事兼助成選考委員長

耳塚寛明氏

ベネッセこども基金理事兼選考委員長
国立教育研究所研究員、お茶の水女子大学理事・副学長などを経て、現在青山学院大学コミュニティ人間科学部学部特任教授。専攻は教育社会学。

—お二人は、ベネッセこども基金が助成事業を立ち上げた当時の状況をよくご存知かと思います。最初の印象とこの5年間の活動について感じたことをお聞かせください。

「子どもの学び」というテーマに特化したユニークな助成

山田氏 前事務局長の龍さんにお声掛けいただき、助成事業をはじめるときにご相談にのりました。ベネッセこども基金の助成事業の最大の特徴は、テーマ特化型という点です。5年前は子どもの貧困が社会課題化したときで、多くの団体が取り組もうとしていたところでした。助成財団が自分たちの課題意識に応えてくれたと感じ、勇気づけられたと思います。子どもの貧困という分野の中でも、「子どもの学び」に着目し、それを軸としたテーマ特化の助成ができたことは、新しい形でしたね。

耳塚氏 設立当初から助成事業に選考委員として関わっていました。最初にはじめた「経済的困難の学習支援」は自身の研究内容の延長にあり、必然性をすんなり理解しました。「子どもの学び」に焦点を当てる方針は明確にあり、今後も軸になることです。財団の理事の立場からすると、奨学金など子どもと家庭を直接支援するのではなく、子どもたちを支援する団体に対して助成する枠組みにしたのがよかったと思います。そのほうが、より多くの人々に影響をもたらす、ムーブメントを生み出すことができるからです。その意味でも、問題提起やユニークな視点を含み、他団体のモデルとなるような事業を選考するという点を重視しています。

ニーズや事業の分析の積み上げによって、徐々に支援の方向が明確に

山田氏 初期の頃は恐る恐る作ったような募集要項や申請書のように思えました(笑)。当初は、どんな団体が申請してくるのが予想がつかずに間口を広くして募集していたのが、徐々に対象が具体的にわかりやすい形になってきたと思います。この5年間で、NPOの実情やニーズの分析が進み、助成プログラムを進化させたのです。特に最近の申請書は、助成事業によって団体や活動がどのように成長するかのポイントを表現できるものになっており、申請書そのものが申請団体にとって過去を振り返り、これからを考えるよいフレームワークになっているのではないのでしょうか。またどういう視点で選考したかを総評でわかりやすく公表されていることもとてもよいことです。申請する団体自体がベネッセこども基金の助成に合うかどうかを自己判断できます。

耳塚氏 確かにプログラムの変わり方は人間の成長のようであり、ベネッセこども基金がどういうところに力点を置いて支援をしていきたいのかが徐々に明確になってきたといえます。現在では他の団体のモデルになりそうな活動、例えば団体間の横連携に重点を置く、実践知を一般的な形に明文化するなどの視点をもった団体を発掘して助成することができるようになりました。

交流会など、助成金だけでなく団体支援に価値あり

耳塚氏 5年間で振り返り、特に大きかったのは助成団体間の交流会の存在。活動の共有や将来的な方向性の話ができている。また、事務局スタッフが団体と対話的な関係を維持しているという点は長所といえます。ニーズや課題を拾い上げていくことを地道にやることは、ベネッセこども基金の成長にもつながっているでしょう。

山田氏 交流会で、非営利組織評価センターの組織評価の仕組みを使った研修をさせていただきました。経営や組織運営の状況を共有し、課題確認ができる基盤強化の集合研修があるのも面白いし、代表だけでなく現場の方など複数人が参加できる形は非常によい取り組みです。助成プログラムは、単に資金的支援だけではなく、プラスアルファの支援が必要です。助成中の団体のイベント情報の紹介などは、もっと発信してほしいです。

助成によるモデルづくりは、 中間支援団体として重要な役割

耳塚氏 気になった点としてあるのが、まだまだ事業の継続性の点で課題を抱える団体が多く存在するという点です。なにかヒントをいただければ。

山田氏 どの助成財団も助成先団体が自立することへの支援の具体策がないところが多く、またベネッセこども基金が扱っているテーマは自立することが難しい領域であるとも思います。まずは団体の自立に関する成功したノウハウや事例を蓄積し、他にフィードバックすることですよね。そして、対象とするテーマをいかに国や自治体の政策にもっていかです。実績を作って国にもっていき、制度化していくことが、ベネッセこども基金がテーマを絞って活動していることの意義だと思います。

耳塚氏 おっしゃるとおりで、民間の財団が支援を継続するといっても限りがあります。ベネッセこども基金は「つなぎ役」として存在し、助成した団体が実績を積み上げ、それを社会に発信し、活動の重要性をアピールし、それを受けて行政が公的プログラムをスタートしてくれるといいなと考えてきました。NPOの中には意識的に

政策提言に取り組んでいるところが現れています。そういう全国的にもモデルとなりうる団体に支援をするということも重視している点です。

山田氏 助成財団の役割として、支援を「次につなげていく」のはとても大事ですね。病院などで病気療養中の子どもを支援する団体である認定NPO法人ポケットサポートさんにお話を

中長期的な成果の
確認を期待します！

きく機会がありましたが、最初は病院からの受け入れが難しかったのが、ベネッセこども基金のような外部から支援を受けたことが信頼につながり、活動の流れができたと言っていました。テーマ特化して複数年助成をし、団体が実績を作って地域の中でも支援の枠組み作りができていたと感じました。モデルづくりの実践例ができていますね。

——最後にこれから期待することをお願いいたします。

公的制度化を目指して、 団体の成果の可視化が必要

山田氏 さきほども話が出たように、公的制度に結びつけるためには、評価を活用し、エビデンスに基づいた施策、つまりどういう手法でどういう成果が出て、受益者の環境をどう変えたか、という成果を見せていくことが大切です。

耳塚氏 活動の社会的な認知を高めることも重要です。成果を可視的な形、つまりデータで示すことは不可欠です。子どもの貧困が社会問題として認知されるようになってから、たくさんの団体が支援活動を行ってきました。支援を受けた子どもたちは今どうしているのでしょうか。例えば追跡調査を行うのはどうでしょうか。「支援を受けた子たちはどうなったか」を社会に向けて示す時期にきたのではと思います。

山田氏 中長期的な成果を見ていくことは助成財団の弱いところですが、現場もデータベースなども整備されてきているので、ぜひベネッセこども基金がリードして明らかにしてほしいと思います。

助成財団としての モデルづくりにも期待！

山田氏 評価といえば、日本には複数年の助成プログラムはあまりありません。ベネッセこども基金の取り組みは社会実験ともいえるので、複数年の取り組みによって事業がどのようになったか、助成プログラム自体の評価をぜひ行ってほしいです。また、資産家が財団をつくるのが増えていますが、ベネッセこども基金の取り組みが新しく財団をつくる際のモデルになると、日本の助成財団が進化します。

耳塚氏 助成する団体に対してモデル性を求めてきました。けれども、私たちベネッセこども基金自身が、モデル性をもった活動をしているかが問われていると思います。

助成団体を代表して、連続5年間「重い病気を抱える子どもの学び支援助成」に採択された認定NPO法人ポケットサポート代表理事の三好さんにお話をうかがいました。

自分たちがやってきたこと、 やりたいことをそのまま応援してくれる!



認定NPO法人ポケットサポート 代表理事 三好祐也さん

義務教育の多くを病院で過ごした体験のもと、岡山大学時代より院内学級でボランティアを行い、2015年長期療養中の子どものためのNPO法人を立ち上げ、2019年認定NPO、非営利組織のためのグッドガバナンス認証を取得。

認定NPO法人ポケットサポートとは

長期の入院や療養によって、学習や体験の機会を失ってしまう子どもたちの機会損失の空白(ポケット)を支援(サポート)する団体。長期入院や療養中の子どもたちへの学習や復学、自立支援を行う「環境をつくる」、当事者や家族の「生きる力を育む」、理解者や支援者を増やし関わる人たちをコーディネートする「人や気持ちをつなぐ」の3つをミッションに「病気を抱える子どもが将来に希望をもち自分らしく暮らせる社会」を目指す。

⇒ ポケットサポートの5年間の活動

*ベネッセこども基金による助成事業部分。
初年度より毎年申請され、毎年採択されました。

2016~18年度

自宅療養中の病弱児と学習支援者を 双方向WEBで結ぶ学習支援事業

オンライン学習支援の様子



子どもと学生ボランティアをオンラインで結んで学習支援を実施。適切なツールや支援方法の見極め、研修などの最適化を進めた。学習意欲、闘病意欲を引き出す実践例が他団体に波及。

2019年度

病気を抱える子どもの ICTを活用した学ぶ 意欲支援事業

自宅で療養中でも、「学校の仲間と体験をともにしたい!」という気持ちを実現するために、ICTで医療、学校と連携するコーディネーターという新しいモデルを作り実績を積み上げた。

2020年度

学校現場における病気の 子どもの支援課題調査と 啓発事業

自宅と学校をICTで結ぶ際、学校の先生方が不安に感じる点を調査し課題をつぶす取り組み。2020年度に実施する調査結果は全国の先例として、役立つことが期待される。

⇒ ベネッセこども基金との出会いと今後への期待

NPO法人立ち上げ前のシンポジウムでの 出会いが助成の申請につながる

まだNPO法人立ち上げ前に初めて登壇したシンポジウムで、事務局の方が話しかけてくれたことがベネッセこども基金との最初の出会でした。私の話に興味をもってくれ、その後活動の見学にも来ていただきました。そんな中で助成募集を知り、「自分たちがやってきたことをそのまま応援してくれる!」と純粋に嬉しかったことを覚えています。

遠くに住んでいる、家に入られることに抵抗感があるなどの療養中の子どもへの直接支援の難しさを、ITという手段を使えば解決できるのではないかと考えていました。ITに強い現事務局長の奥田が加入したこともあり、これはいいタイミングだと申請をしました。ベネッセこども基金から「双方向WEB学習支援事業」の助成を受けたことで、活動を広く発信することができ、興味をもってくれる人が増え、ポケットサポートへの協力や子どもへの支援の方法が広がったことは非常に大きかったです。

「人」と「人のつながり」を重視した助成財団に、 団体の共通の課題を一緒に考え、 解決していく存在になることを期待

助成団体同士の交流会に、代表1名だけでなくスタッフと一緒に参加できるのはありがたいです。同じ課題に取り組む他団体の人と出会えること、病気の子どもたちの未来を語り合える同じ志の人たちとつながることは、現場で力を発揮し続けられる原動力となります。また、活動は人がいてこそなので、助成金を人件費に使えるというのはありがたく、「人」を大切に助成財団だと感じています。

この領域の活動を続けていくためには、ファンドレイジング、医療現場との連携、学校現場との連携の大きく3つが課題だと思っています。多くを望みすぎ?!と笑いつつ(笑)、ベネッセこども基金には、共通課題の解決のために、助成金だけでなく、各団体の活動を広く紹介していただいたり、団体間で学び合う環境をつくっていただくなどの支援を、引き続き期待しています。



財団の原点事業

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全を守る活動は、
設立当初から自主事業の核として
「防災」「防犯」「ネット」をテーマに、
教育プログラムの開発や地域で安全

活動する方々のサポートに取り組ん
できました。

活動方針とオリジナル開発した支援
プログラムの1つをご紹介します。



「子どもの安心・安全を守る活動」とは

子どもたちが安心して学習に取り組める環境を実現するには、「子ども自身が自分を守るための力を育む」とともに、「子どもを見守りながら育てられる地域の環境づくり」

が必要と考えています。それらを活動の2本の柱とし、各テーマの専門家のご協力をいただきながら取り組みを進めています。

子どもが自らを守る力UP

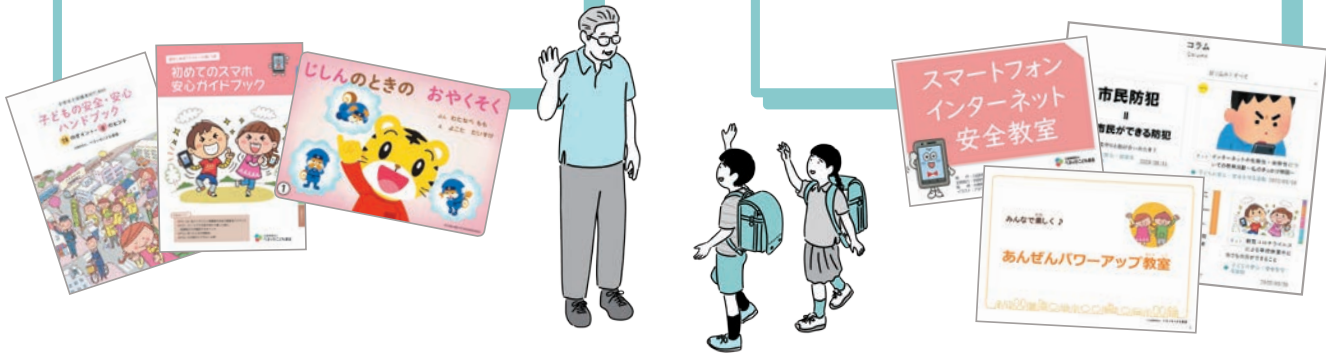
地域の見守り力UP

支援プログラムの特徴

- ・幼児から小学生を対象
- ・専門家監修のベネッセこども基金オリジナルコンテンツ
- ・イラストやQA形式で、「怖くなく」「楽しく」学べる
- ・保護者ページも充実。学校で習ったことを家庭内でも見直すことで、親子で一緒に学び合える。

指導者向けコンテンツの特徴

- ・支援プログラムの冊子と連携した内容の講師用プログラムにより、誰でも簡単に、すぐに講演会が実施できる
- ・コンテンツをご利用いただいた学校の活用事例をサイトで紹介
- ・「防犯」「ネット」の専門家コラムもサイトに掲載



Free

支援プログラムコンテンツは、無償でご提供しています

ベネッセこども基金オリジナルの支援プログラムは、子どもの安全を守る活動（非営利）にご活用いただく場合、すべてのコンテンツを無償で提供いたします。

※送料はご負担いただきます。また、すべてのコンテンツが「ウェブベルマーク」の対象です。

公益財団法人ベネッセこども基金 安心・安全窓口

TEL. 04-7137-2570

月～金 10:00～17:00 *祝日・夏季休暇・年末年始を除く



お申し込み方法の詳細は、
ベネッセこども基金サイトをご確認ください。
<https://blog.benesse.ne.jp/kodomokikin/support/useful/>

文字コミュニケーションの難しさを体験して学ぼう ネットかいてきコミュニケーション教室

安全インストラクターの武田信彦さん、演劇のプロたちとともに、小学校高学年向けのワークショップを開発しました。ネットやスマホでコミュニケーションをしたことがない子どもでも理解でき、トラブルを未然に防げるように、体験や実感にこだわりました。

第1部 コミュニケーションゲーム

文字を使わず コミュニケーション

STEP

1

ねらい 伝えるコツと楽しさを体験

同じ血液型はだれ？ 声を出して見つけよう

仲間を見つけるために子どもたちは自分の血液型を大きな声で伝えます。しかし、なかなかグループができません。次第に、手で○の形を作ったりと、ジェスチャーを



交えながら伝えることでやっと集まることができました。コミュニケーションは言葉だけではないことを体験できます。

STEP

2

ねらい 言葉以外の
コミュニケーション体験

同じ誕生日はだれ？ 声を出さずに見つけよう

言葉を使わず体の動きだけで「同じ誕生日」の仲間を見つけます。自分の誕生日を的確に伝えるためにはどのように表現すればいいのか考えます。



また、仲間を見つけるためにまわりの動きや相手の表現や相槌などを読み取ることが重要です。

STEP

3

ねらい 人によって感じ方が
異なることを体験

同じような 気持ちの人はだれ？

「この表情は、どんな気持ちかな？」“驚いている”“悲しい”“困っている”など、自分が感じた気持ちを共有します。自分と友だちとの感じ方の違いを知り、自分が



当然だと思うことでも、人によっては感じ方が異なることを学びます。



ワークショップのこだわり

- 声や体などを使った参加体験型で楽しく学べる!
- 「文字なし」「文字のみ」のコミュニケーションの違いを体感!
- プロによる迫力あるトラブル事例で怖さをリアルに体験!

第2部 演劇を見て考えてみよう

文字だけのコミュニケーション

ねらい

SNSのやりとりで起きる誤解を実感

SNSを使った友だち同士の会話を演劇で見てみよう

SNSを使ったコミュニケーションはとても便利ですが、相手の表情が見えないと、誤解が生まれやすいことを実感します。「いいよ」のひと言も、プラスにもマイナスにも感じるができます。また、勝手に想像することで、さらに状況が悪化することもあります。



公園に遊びに行こうと約束しているSNS上の一コマ

今から公園に遊びに行かない?

いいよ

なおちゃんも誘う?

なおちゃんはムリ(*_*)



なおちゃんとケンカでもしたのかな?

なおちゃん、今日は習い事の日だって言ってたな



Voice

参加した子どもたちの声

自分もスマホも持っているけれど、メッセージを送るときに、結構間違えてしまうことが多かったの、気を付けたいと思いました (5年生女子)

顔文字を見て気持ちをあてるゲームをやってみて、プラスの気持ちとマイナスの気持ちに分かれたから、人それぞれ個性があるんだなと思いました (5年生男子)

先生の声

今日勉強したことを必ず活かしてほしいと思います。絶対に経験する時が来ると思うので、相手のことを考えて言葉を選ぶことを大切にしてほしいです。(5年生担任)

子どもたちの「想像力」を育むために

自分を守る力とは、コミュニケーション力の延長にあるものだと考えています。このプログラムの目的は、声や体を使ったコミュニケーション力の基礎の確認です。伝えること・受け止めることで生じる誤解やトラブルは、想像力をフルに発揮して解消したいものです。

自分の気持ちを伝えるためには、相手の気持ちを想像して丁寧に伝えることが求められますし、メッセージや情報を受け取った際にも正確に解釈するためには想像力を使いますね。頭で考えるよりも、声や体を使い元気に楽しく学んで欲しいです。



企画協力・講師
うさぎママの
パトロール教室主宰
安全インストラクター
武田信彦さん

犯罪防止NPOでの活動を経て、2006年より安全インストラクターとして活動を開始。「市民防犯」のバイオニアとして全国で講演やセミナーなど多数実施中。



ベネッセこども基金サイトにて
月刊「安全インストラクター武田信彦による防犯コラム」連載中!
<https://blog.benesse.ne.jp/kodomokikin/column/>

子どもの安心・安全を守る活動

子どもの安心・安全な環境づくりのためには、「子どもが自分自身を守る力を高めること」と「地域の見守り力を高めること」の両輪が必要です。

専門家とも連携し、地域で活動する方々が直接指導できる教育プログラムの開発や、活動する方々のサポートに取り組んでいます。



⇒ 教育プログラムの開発・普及

防災

保育園・幼稚園向け



防災教育紙芝居
「じしんのときのおやくそく」
全国の保育園・幼稚園配布数のべ約**10,500園**※

防犯

小学校
低学年向け



子どもの安全・安心ハンドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校配布数のべ約**20.9万部**※

ネット



初めてのスマホ安心ガイドブックと
安全教室実施パッケージ
全国の小学校配布数のべ約**23.1万部**※

小学校 中・高学年向け



ネットかいてき
コミュニケーション教室
演劇手法を取り入れた
体験型授業

※配布数はすべて2020年3月時点

2020年度は

より多くの方に活用いただけるよう、普及拡大を目指します。また、学校現場以外にも、簡単に安心して安全教室が実施いただけるような施策も検討していきます。

経済的困難を抱える子どもの学び支援

日本において深刻化する社会課題である「子どもの貧困」に対する取り組み。知見あるセクターと協業して、助成団体同士のノウハウ共有やネット

ワーク化から見えた団体共通の課題解決のモデルづくりに取り組んでいます。



⇒ 支援人材の育成

ユースソーシャルワークみやぎ

人材育成計画の
立案・実施
コミュニティ創出

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

ノウハウを
全国の
団体へ共有

地域の自律的な人材育成支援に必要なプログラムや人脈を獲得するための共同事業の最終年度。他団体への共有ができる形で知見やノウハウがアウトプットできる形に総括を実施。

⇒ 学びの質向上

キッズドア

Learning For All

連携

公益財団法人 ベネッセこども基金

・子どもの課題に沿った独自教材開発を支援
・学習支援現場でのトライアルや検証

先進的な団体と連携して、現場の課題解決モデルの検証や独自教材の開発を支援。コンテンツ完成後は、全国の他団体への現場に普及予定。

⇒ 支援現場の課題の 社会発信

公益財団法人
ベネッセこども基金

社会的な
議論環境づくり



子ども支援の現場や担い手が抱える課題の現状調査を実施。エビデンスをもとに課題提起し社会全体の理解と議論環境をつくる試み。

2020年度は

継続案件は続けながら、団体共通の課題解決へのベネッセこども基金の効果的な関わり方やテーマそのものを模索していきます。



病気・障がいを抱える子どもの学び支援

重い病気や障がいによって、学びに対するサポートを必要としている子どもとその保護者に対して、病院・学校・活動団体や専門家等と連携し、学びのモデルづくりや情報提供などを行っています。

⇒ 院内学級での学び支援プロジェクト



特別支援学校・校長会での成果発表など、社会発信も!

東京都内の特別支援学校4校と連携し、分身ロボットOriHimeを活用した学び支援プロジェクト



⇒ 発達障がいのある子どもと保護者の学び支援

情報提供による支援



発達障がい支援サイトエール&リンク



子ども向け支援



発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」

保護者向け支援



自分を知り、やさしい子育てを実践するためのプログラムを開催

2020年度は

これまでの取り組みは引き続き必要な家庭に届けつつ、その先のニーズを見極め、社会に必要な新たな仕組みづくりに着手していきます。

よりよい社会づくりにつながる学び支援

“ソーシャルリーダーシップ”=「地域やコミュニティに主体的に関わり、社会をよりよくしていく一人としての役割を果たすことができる力」であり、未来を生きる子どもたち全員に必要な能力であると定義。先進的な取り組みがある団体と連携しながら、よりよい社会をつくる子どもたちを育てていきます。

⇒ 親子でチャレンジ国際理解！ちびっこおえかきコンテスト



2019年度結果
応募数:1,949作品
参加園:115園
感染症対策のため表彰式は中止

認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンと共催で実施している、就学前の子どもたちが保護者と一緒に発達途上国の問題について学ぶ教育プログラム。

⇒ 国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版



国際パラリンピック委員会公認教材『I'mPOSSIBLE』日本版全国の小中高特別支援学校など約36,000校に配布

公益財団法人日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会/日本財団パラリンピックサポートセンターと連携して、共生社会への気づきを子どもたちに促す教材を開発。2020年6月、東京2020大会に向けた全ユニット完成。

⇒ 高校生英語ディベート世界大会 (WSDC)



5th Best EFLとして初受賞の快挙を達成!

▲ 2019年度日本代表団のみなさん

世界大会は2019年7月24日～8月2日にタイのバンコクで開催

一般社団法人全国高校英語ディベート連盟(HEnDA)の国際委員会と共同で、日本代表チームの国際大会への派遣事業などを企画・運営。

2020年度は

継続案件は引き続き実施。パラリンピック教材の普及など、新しい関わり方や新テーマの取り組みも検討していきます。

助成事業

2019年度活動概況と2020年度の方向性

助成事業では毎年「重い病気を抱える子どもの学び支援」「経済的困難を抱える子どもの学び支援」「被災した子どもの学びや育ちの支援」の3テーマについて、各地域の個々の団体の活動支援を行っています。また、助成による支援に留まらず、団体同士の連携づくり支援やノウハウ共有などのサポートにも取り組んでいます。

交流会 meeting

2018年度募集・2019年度活動助成団体

助成団体同士の横のつながりづくりや、各団体の強みやスキルの情報交換を行っていただく目的で、交流会を毎年開催しています。活動期間の期中で開催することにより、他団体の活動について知ることができ、自団体の活動のヒントを得ていただけるようにしています。

重い病気を抱える子どもの学び支援

2018年度募集・採択し2019年度に活動を行った【重い病気】助成全7団体で交流会を実施しました。

医療的ケア児とその家族がリラックスして過ごすことができる短期入所施設「もみじの家」の見学も行いました。

2019年7月11日・12日

- 1日目：各団体の活動報告
有識者による講演
- 2日目：もみじの家見学会

「先進事例に刺激を受けました。」
などのお声をいただきました。



経済的困難を抱える子どもの学び支援

2018年度募集・採択し2019年度に活動を行った【経済的困難】助成全7団体の交流会を実施しました。各団体の活動報告と、非営利組織評価センターの協力を得て、団体の運営を振り返るプログラムで知見やノウハウの交換をしました。

2019年7月3日活動内容報告

団体の運営を振り返るセッションを実施

- ・団体同士が相互に活動を知り、知見やノウハウを交換。同テーマで活動する団体ならではの悩みや課題を共有。
- ・団体運営の振り返りを通じて、「自団体のできていないことや、自分たちの強みも知ることができてよかった。」などのお声をいただきました。



2019年度募集および決定助成団体と2020年度助成事業の方向性



重い病気を抱える子どもの学び支援活動助成

重い病気などによって学びへの意欲向上や学習支援などをより必要としている子どもたちに対して、学びの機会の提供や学習環境づくりなどの活動に取り組む団体を支援します。

2019年度募集概要

- ・募集期間：2019年8月1日～2019年9月25日
- ・助成対象期間：2020年4月1日～2021年3月31日
- ・応募数：30件 ・採択事業数：6件 ・金額：計 9,055,030円

助成先団体名	申請事業名	所在地	助成金額(円)
特定非営利活動法人 i-care kids 京都	医療的ケアを必要とする子どもたちの「食」の世界を広げるプロジェクト	京都府	529,520
非営利活動団体 未来ISSEY	香川県内におけるがんや難病の子どもとその家族のケアサポート事業	香川県	1,999,000
一般社団法人 在宅療養ネットワーク	立体オリジナル絵本で子どもたちと楽しみながら医療的ケア児等への理解を促す心のバリアフリー促進教育事業	香川県	1,520,000
一般社団法人 日本育療学会	病気療養する子どもがいる自宅や病室と学校の教室とをICT活用によって「確実につなぐ」学びの支援事業	京都府	1,680,310
特定非営利活動法人 BLACKSOX	チャレンジスポーツ!【医ケア児・重度障がい児】	神奈川県	1,468,200
認定特定非営利活動法人 ポケットサポート	学校現場における病気を抱える子どもの支援課題調査と啓発事業	岡山県	1,858,000

2020年度は

本領域テーマの社会的認知をより高められるよう、有力な助成団体との連携をさらに強化してまいります。



経済的困難を抱える子どもの学び支援活動助成

多様な子どもの課題に対し、団体の事業基盤の強化や新たな事業へのチャレンジなど、中長期視点で取り組む事業に対して、最大3か年での助成の活動を2019年度より開始しました。並行して、2020年度より活動する助成先団体を募集し下記のように採択いたしました。

2019年度募集概要

- ・ 募集期間：2019年11月26日～2020年1月7日
- ・ 助成対象期間：2020年4月1日～2023年3月31日（最大3年間）
- ・ 応募数：79件
- ・ 採択事業数：6件 ・ 金額：計 19,525,630円（初年度）

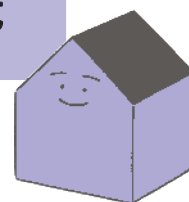
助成先団体名	申請事業名	所在地	初年度助成金額(円)
特定非営利活動法人 暮らしづくりネットワーク 北芝	公営団地集会所を活用した寺子屋とアウトリーチ型 学習支援による地域協同システムの構築	大阪府	2,779,000
特定非営利活動法人 サンカクシャ	参加及び学びの意欲が低い子ども若者を 支援するためのモデル開発事業	東京都	2,987,030
特定非営利活動法人 チャイボラ	社会的養護施設の職員を増やし定着を促進することで、 施設間格差のない児童の日常的な 学習支援体制を構築する	東京都	4,786,000
特定非営利活動法人 TEDIC	支援における「経験知」の見える化事業	宮城県	2,993,600
認定特定非営利活動法人 ふじみの国際交流 センター	留学生や母語話者による 来日直後の外国人親子に対する 日本語学習支援と相談	埼玉県	3,000,000
特定非営利活動法人 ユースコミュニティー	地域の力を総動員して取り組む 学習支援事業の強化	東京都	2,980,000

2020年度は

中長期視点での事業成果を目指し、最大3か年の助成の募集が3年目となります。複数年助成の枠組みの効果が高められるよう、運用をさらに工夫してまいります。

被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

2019年度は10月に発生した台風19号被害に対して緊急助成を実施しました。



「令和元年台風19号」で被災した子どもの学びや育ちの支援活動助成

- ・募集期間：2019年10月18日～12月18日
- ・助成対象期間：2019年10月12日～2020年4月12日
- ・応募数：48件・採択事業数：12件
- ・金額：計 5,065,898円

助成先団体名	所在地	申請事業名	活動地域	助成金額(円)
子どもの心と身体の成長支援ネットワーク	東京都	おもちゃのひろば、絵本を送ろう	福島県 相馬市	330,000
すかがわ子育てネットワークTUNAGU	福島県	子ども服無料配布活動と災害後の心のケア事業	福島県 須賀川市	692,948
特定非営利活動法人 Class for Everyone	神奈川県	土砂崩れによって学校に通えなくなった子ども達の学びの場を作る移動図書館プログラム	神奈川県 相模原市	450,000
特定非営利活動法人 ながのこどもの城 いきいきプロジェクト	長野県	北レクこどもの居場所事業	長野県 長野市	656,500
特定非営利活動法人 福島ユナイテッド スポーツクラブ	福島県	台風被災地巡回サッカー教室事業	福島県 伊達市、本宮市	250,000
FAKP福島 アクティブキッズ Project	福島県	福島県の重点被災地での「運動あそび」を活用した子供の体力回復&リフレッシュ事業	福島県	478,000
一般社団法人 笑顔の花	長野県	大規模災害時における母子の助け合いネットワークづくり 台風19号 長野緊急災害 母子支援活動	長野県 長野市北部	500,000
一般社団法人 長野県助産師会	長野県	妊婦・母子・子どもの災害地支援	長野県長野市、飯山市、須坂市、上高井郡小布施町	196,750
特定非営利活動法人 東松山子育てねっと	埼玉県	「はあと&はあと」台風被災後のママと子どもたちの心に寄り添う事業	埼玉県 東松山市	320,000
一般社団法人 マザー・ウイング	宮城県	丸森町親子のための居場所事業	宮城県 伊具郡丸森町	500,000
一般社団法人 茨城県助産師会	茨城県	助産師による災害時の要援護者(妊産婦・乳幼児)に対する自助力を高めるための支援事業	茨城県水戸市、東茨城郡城里町、常陸太田市、常陸大宮市、久慈郡大子町	509,000
特定非営利活動法人 ワーカーズコープ 篠ノ井事業所	長野県	篠ノ井わくわく広場	長野県 長野市	182,700

※被災地の環境変化の影響を受け、申請事業の未実施・縮小などが生じたことによる助成金の返納もありました。

2020年度は

2019年度より始めた災害緊急助成の枠組みの経験を踏まえ、災害発生時に、よりタイムリーに必要な団体へ助成が行える運用を目指します。

理事長ごあいさつ

特集1 5年間のヒストリー

特集2 「助成事業」

特集3 「自主事業」

活動概況

自主事業・助成事業

決算報告

財団概要

2019年度 決算報告

貸借対照表の要旨(2019年4月1日~2020年3月31日)

		科目	金額			科目	金額
資産の部	1	流動資産	68,079,903	負債の部	1	流動負債	16,803,925
		現金預金	67,787,874			未払金	16,732,497
		貯蔵品	292,029			預り金	71,428
	2	固定資産	329,206,933		負債の部合計		16,803,925
		特定資産(事業積立資産)	328,800,835		正味財産の部	1	指定正味財産 (うち特定資産への充当額)
その他固定資産(ソフトウェア)	406,098	2	一般正味財産	51,682,076			
資産の部合計		397,286,836	正味財産の部合計			380,482,911	
				負債及び正味財産合計		397,286,836	

正味財産増減計算書の要旨(2019年4月1日~2020年3月31日)

		科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部	1. 経常増減の部	(1) 経常収益	162,243,357	144,625,034	17,618,323
		受取寄付金	161,344,751	143,505,429	17,839,322
		受取寄付金	5,757,440	21,402,990	△ 15,645,550
		受取寄付金振替額	155,587,311	122,102,439	33,484,872
		雑収益	898,606	1,119,605	△ 220,999
		(2) 経常費用	164,557,126	143,881,341	20,675,785
		事業費	142,243,357	124,625,034	17,618,323
		支払助成金	48,985,518	44,804,951	4,180,567
		給料手当	23,205,520	20,624,170	2,581,350
		委託費	13,589,420	10,561,650	3,027,770
		印刷製本費	13,793,366	6,637,190	7,156,176
		支払負担金	8,656,000	7,785,960	870,040
		その他事業費(制作費、賃借料など)	34,013,533	34,211,113	△ 197,580
	管理費	22,313,769	19,256,307	3,057,462	
	給料手当	5,801,379	5,156,038	645,341	
	賃借料	1,481,639	1,593,844	△ 112,205	
	制作費	3,896,486	1,242,406	2,654,080	
	委託費	5,742,174	5,984,115	△ 241,941	
	法定福利費	950,093	837,193	112,900	
	その他事業費(ソフトウェア償却費、報酬など)	4,441,998	4,442,711	△ 713	
	評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,313,769	743,693	△ 3,057,462	
	評価損益等計	0	0	0	
	当期経常増減額	△ 2,313,769	743,693	△ 3,057,462	
	2. 経常外増減の部	(1) 経常外収益	0	0	0
		(2) 経常外費用	0	0	0
		当期経常外増減額	0	0	0
		税引前当期一般正味財産増減額	△ 2,313,769	743,693	△ 3,057,462
当期一般正味財産増減額		△ 2,313,769	743,693	△ 3,057,462	
II. 指定正味財産の部	一般正味財産期首残高	53,995,845	53,252,152	743,693	
	一般正味財産期末残高	51,682,076	53,995,845	△ 2,313,769	
	受取寄付金	150,000,000	150,000,000	0	
	一般正味財産への振替額	△ 155,587,311	△ 122,102,439	△ 33,484,872	
	当期指定正味財産増減額	△ 5,587,311	27,897,561	△ 33,484,872	
III. 正味財産期末残高	指定正味財産期首残高	334,388,146	306,490,585	27,897,561	
	指定正味財産期末残高	328,800,835	334,388,146	△ 5,587,311	
	正味財産期末残高	380,482,911	388,383,991	△ 7,901,080	

財団概要

名称	公益財団法人 ベネッセこども基金
所在地	〒206-8686 東京都多摩市落合1-34
設立年月日	2014年（平成26年）10月31日 ※公益財団法人移行日：2015年（平成27年）4月1日

役員

代表理事・理事長	五十嵐 隆	国立成育医療研究センター 理事長
代表理事・副理事長	福原 賢一	株式会社ベネッセホールディングス 特別顧問
理事	耳塚 寛明	青山学院大学 コミュニティ人間科学部 学部特任教授
理事	小見山 智恵子	東京大学医学部附属病院 副院長 看護部長
理事	青柳 光昌	一般財団法人社会的投資推進財団 代表理事専務
理事	マセソン 美季	公益財団法人日本財団パラリンピックサポートセンター 推進戦略部プロジェクトマネージャー
理事	岡田 晴奈	株式会社ベネッセホールディングス 取締役 兼 上席執行役員 グローバルこどもちゃれんじカンパニー長
監事	尾尻 哲洋	税理士

評議員

評議員	高野 一彦	関西大学社会安全学部・大学院社会安全研究科 教授
評議員	宮城 治男	特定非営利活動法人エティック 代表理事
評議員	西村 洋	株式会社ベネッセホールディングス執行役員 社長室長

※2020年7月現在

2020年7月発行
発行：公益財団法人 ベネッセこども基金
写真 表紙：岩崎美里
イラスト：芦野公平

アートディレクション：細山田光宣（株式会社 細山田デザイン事務所）
デザイン：鎌内文、能城成美、鈴木沙季（株式会社 細山田デザイン事務所）
印刷・製本：株式会社 協同プレス

<https://benesse-kodomokikin.or.jp>

公益財団法人ベネッセこども基金の活動全体を紹介するサイトです。助成の応募情報などもこちらからご覧ください。



メール & リンク



<https://benesse-kodomokikin.or.jp/activity/yellandlink/index.html>

発達が気になるお子さまをお持ちの保護者の方や、そのサポートに取り組む方々を応援する発達障がい支援サイトです。

親子でチャレンジ国際理解!

ちびっこおえかきコンテスト



<http://chibikko-oekaki.org>

ベネッセこども基金と認定NPO法人グッドネーバース・ジャパンが共同事業として行っている、親子で国際理解について学ぶ教育プログラムの専用サイトです。



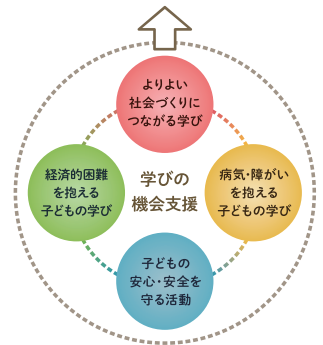
KIDS DESIGN
AWARD 2019



キッズデザイン賞受賞!

「親子でチャレンジ国際理解! ちびっこおえかきコンテスト」がキッズデザイン賞(子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン)部門を受賞しました!

子どもが自らの可能性を
広げられる社会



THIS IS
MECENAT
2019

親子でチャレンジ国際理解!

ちびっこおえかき コンテスト



・親子でチャレンジ国際理解! ちびっこおえかきコンテスト
・発達障がい支援ワークショップ「音と光の動物園」が、
芸術・文化支援による豊かな社会づくりの取り組みとして
「This is MECENAT 2019」に認定されました!



「スマートフォン・インターネット安全教室」実施プログラムが、
教育現場で役立つ優秀な教材を表彰する
消費者教育教材資料表彰2019優秀賞を
受賞しました!



ベネッセこども基金公式Facebook

<https://www.facebook.com/benessekodomokikin2014/>

